

進んで活動する姿

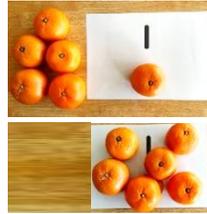
続けて最後まで
する姿目的・目標を持って
活動する姿

友だちと学び合う姿

深く考える姿

実践事例 小学部

『自分から果物を置いて数え、注文と同じ数の商品をそろえよう！』

**1. 生徒の実態と望む姿**

- ・小学部3年生 男子(小学部1年生1名、小学部3年生2名のグループ)
- ・注文シートの印に具体物を置いて数字と同じ数をそろえるとき、右写真のように、印に具体物を置いた後に余っている具体物をすべてシートの上に置く。
- ・同じ活動が続くと離席をすることがある。

そこで本題では以下の望む姿を設定した。

→「附特商店ごっこ」で、数字と同じ数の印の上に商品を置いてそろえるとき、左から順に1対1対応させて置いた後、指で一つずつ押さえて、教師と一緒に数えるようになってほしい

2. 教材の概要 教材：『附特商店ごっこ』

- ・注文シート(数字とそれに対応する印があるもの)に商品(みかんなど)を置いて、注文と同じ数の商品をそろえて数対象を作る。

3. 授業のポイント**ポイント1 進んで学習するための仕組みと教具の工夫****【進んで学習に取り組むためには、どうすればよいか？】**

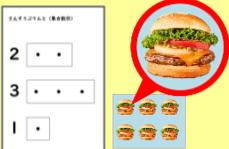
本が好きという実態から、課題を終えたら児童の好きなキャラクターシールをシール帳に貼る仕組みにして、意欲的に学習に取り組めるようにする。

【がんばったねシール帳】



【課題ボード】

見通しをもち、どれくらい(量)すれば課題が終わり、シールをもらえるかがわかるように、課題数をマグネットで提示し、1問終わるごとに1つずつマグネットを取っていく。



【学習プリントとシール】

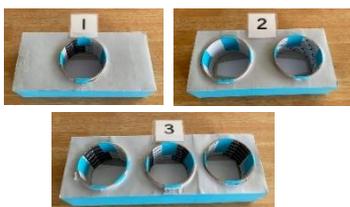
食べ物の写真が好きという実態から、プリントで使用するシールを児童の好きな食べ物写真にし、興味をもって意欲的に学習に取り組めるようにする。

授業構想チェックシート

内容チェック 5. 学習環境:教具について ④⑤
意欲チェック 1. 教材について ⑧

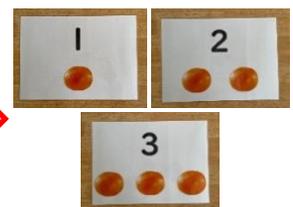
ポイント2 注文シートの印に着目して数対象を作るための題材の工夫**【印と1対1対応させるためには、どうすればよいか？】**

- ①はじめは、はめ込み型教具(写真左)にして、型と商品を一対一対応させることがわかるようにする。
- ②数字に対応する数の商品(みかん)を置いた後に、数対象を指で一つずつ押さえ、その後に教具に付いている数字カードを指さして、数字と数、数詞を意味づけるようにする。
- ③はめ込み型教具で十分に対応させられるようになってから、注文シート(写真右)を使用する。



【はめ込み型教具】

教具の支援の強度 強から弱へ



【注文シート】

授業構想チェックシート

内容チェック 2. 題材計画について
5. 学習環境:教具について ⑤
意欲チェック 2. 題材計画について ⑥